

研究機関：広島大学

研究課題名 流行性角結膜炎に対する原因ウイルス解析と院内感染対策の構築

研究責任者名 医歯薬保健学研究科視覚病態学 教授 木内良明

研究期間 2017年11月15日(倫理委員会承認後)～ 2027年1月31日

研究対象者

2017年11月から2021年7月の間に、広島大学病院眼科を受診した結膜炎の患者さんのうち、アデノウイルス迅速診断キット陽性となり、遺伝子解析検査で原因ウイルス型が判明し、感染治療後に日常診療で行われる眼科視機能検査（視力、眼圧、光干渉断層計、共焦点顕微鏡検査のいずれか）を実施した患者さん。

意義・目的

ウイルス性結膜炎は伝染性の疾患であり、感染力が強く、市中感染だけでなく、院内感染の原因病原体としても重要です。流行性結膜炎（以下 epidemic keratoconjunctivitis: EKC）の診断は、日常診療ではクロマトグラフィ法によるヒトアデノウイルス迅速診断キットにより感染の有無を判定しますが、原因ウイルス型の判定はできません。近年、遺伝子解析によって 53.54.56 型などの新たなウイルス型が報告されています。2015年以降、当科でも 54 型が検出されました。新たなウイルス型に関しては、日本でしか分離されていないうえ、臨床経過や合併症について詳細な検討がされていません。そこで今回、広島大学病院における 54 型を含む流行性角結膜炎の遺伝子解析を行い原因ウイルス型の解析を行います。さらに、それぞれの臨床的特徴や合併症を含めた視機能への影響などを検討し、予後予測因子を解析します。また、現在よりもさらに嚴重な院内感染対策方法を模索します。

研究方法

本研究は、遺伝子解析と診療録（カルテ）情報を調査して行います。

カルテから使用する内容は年齢、性別、治療経過、視力、眼圧、角膜形状、高倍率顕微鏡検査結果などです。日常診療で行われる迅速診断キット検査に用いた結膜ぬぐい液を 0.1cc 以内採取します。結膜ぬぐい液は本学で匿名化後広島市衛生研究所に送り、遺伝子型を解析します（個人を特定可能な情報は解析に用いません）

共同研究機関

本研究は本学単独で行います。

試料・情報の管理責任者

広島大学医歯薬保健学研究科視覚病態学 教授 木内良明

個人情報の保護について

調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心